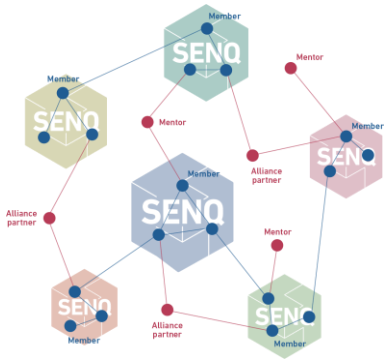
2 オープンイノベーションによる事業・サービスの創出

「SENQ」における取り組み

「SENQ（センク）」は、ベンチャー・スタートアップ、企業内イノベーター、経営者、クリエイター、エンジニア、大学・研究機関、地方公共団体など、多様な主体が集う協業・共創の場として、オープンイノベーションの促進に取り組む、オープンイノベーションオフィスです。「先駆」に由来するブランドとして、次代を担うイノベーターの活動を支援しています。



各拠点では、施設ごとに設定したテーマのもと、会員同士の交流や協業を促進する環境づくりを推進し、拠点内・拠点間の交流イベントの開催や、アライアンスパートナーとの連携による協業・共創支援を通じて、会員の事業成長および新たな価値創出に貢献しています。

SENQ open innovation office
未来はここから動き出す。

「SENQ」が提供するビジネスのつながりを生む3つのしくみ

01 地域性に応じた施設テーマを設定

02 テーマの異なる拠点間で異業種のマッチングを支援

03 パートナーによる事業支援・経営支援やマッチングを支援

●SENQの主な実績

・SENQ拠点数：8拠点
SENQ京橋・SENQ青山・SENQ霞が関・SENQ六本木・SENQ青山並木通り・SENQ目黒・SENQ淀屋橋・SENQ田町を展開しています。

・入居企業数：約400団体
ベンチャー・スタートアップをはじめ、企業、大学・研究機関、地方公共団体など、多様な団体が入居しています。

・パブリックパートナー数：34団体
地方自治体や公的機関、大学・研究機関などとの連携を通じて、官民連携・産学官連携による共創を推進しています。

・アライアンスコーディネーター数：42団体
「SENQ Alliance Coordinator」制度を通じて、入居者同士の交流促進や、セミナー・ピッチイベントの開催、コーディネーターの紹介などを行い、協業機会の創出や事業成長の支援に取り組んでいます。

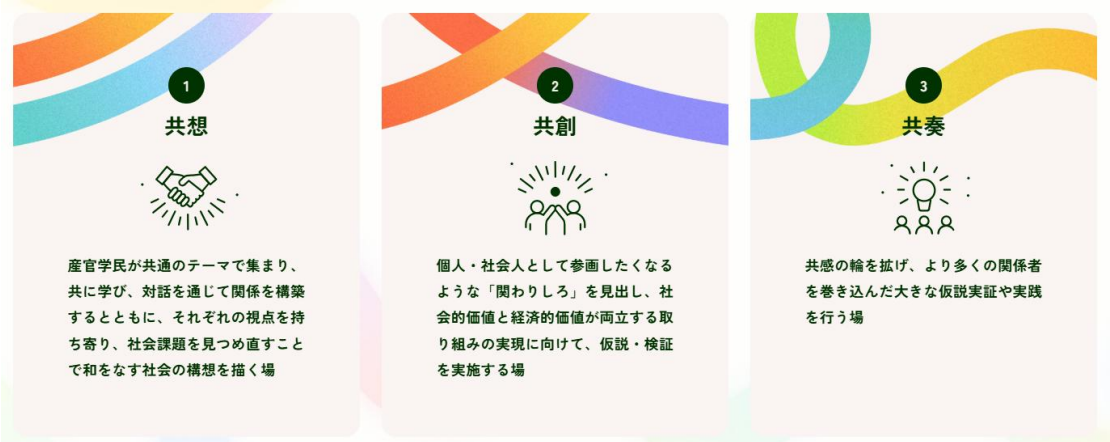
・コミュニティ活動実施回数：79回／2025年度実績
拠点内・拠点間の交流イベントを通じて、会員同士の異業種交流や協業機会の創出を推進しています。

2 オープンイノベーションによる事業・サービスの創出

官民交流拠点「Tolaza」の取り組み

Tolazaは、2027年10月に竣工予定のTORANOGATE内に開設する官民交流拠点です。虎ノ門の立地特性を活かし、国や地方自治体などの「官」と、市民、NPO・NGO、事業者、教育・研究機関などの「民」をつなぎ、多様な主体による対話と共創を通じた社会的インパクトの創出・活性化を目指しています。Tolazaの運営に先立ち、トライアル拠点「官民共創 HUB」において、官民共創による2つのパイロットプロジェクトを実施しており、その知見を今後Tolazaの取り組みに展開していきます。

●Tolazaが提供する3つのキョウソウの場



施設イメージパース

●パイロットプロジェクト

精神に障がいを抱える方の誇りある就労活性化に向けた取り組み

「精神に障がいのある方の誇りある就労の活性化」をテーマに、障がい当事者を含む多様なステークホルダーとの対話を重ねながら検討を進めました。

各立場における課題を可視化し、その解決に向けた対応策を議論した結果、得られた知見をもとに「ケアノベーションマネジメント」を提唱しました。

人口減少社会を見据えた介護人材確保に関する官民有識者との検討

人口減少が進む社会における介護人材の確保をテーマに、「民間版審議会」を主催し、中央省庁、大学、大手企業などの関係者と議論を行いました。
介護人材確保のあるべき姿や具体的なアクションプランについて検討し、内容を取りまとめ公表しています。

2 オープンイノベーションによる事業・サービスの創出

ワークプレイスのR&D拠点「NAKANIWA」

「ワークスペース」「人」「環境」の 3つの軸で、オフィスの在り方を研究・開発・検証する R&D 拠点「NAKANIWA」では、自社保有林の間伐材を使用した自然とのつながりを感じる空間設計と、ウェルビーイングを向上させるソフトコンテンツを導入しています。利用状況の分析や社員向けのワークショップを通じて得られた知見は、今後のオフィス開発やサステナビリティ経営の促進に活用します。

NAKANIWA

分析事例： GISTA×NAKANIWA 心拍数実証実験

GISTA（ジスタ）は、心拍データなどの生体情報と位置情報を組み合わせて計測・分析し、オフィス空間や働き方を定量的に評価するための実証実験・システムです。NAKANIWAでは、GISTAを活用し、ワークプレイスが利用者の心理面・身体面に与える影響を把握し、今後の空間設計や運営改善に生かすことを目的に、アンケートおよび生体指標を用いた分析を実施しました。あわせて、ヨガや園芸イベントの実施前後における変化も検証し、ウェルビーイング向上に資する施策の有効性を分析しました。

心拍データ測定

ヨガイベントの様子

分析結果（一例）

- 「普段より集中できた」割合が本社執務スペースの約7倍、「普段よりリラックスできた」割合が約1.35倍で、集中とリラックスの両面に効果
- 利用日に、他部署とのつながりが1.9倍、気持ちの切り替えが2.1倍、インフォーマルなコミュニケーションが4.4倍に増加
- 打合せ・Web会議で活力度が高く、生産的で活発なコミュニケーションが生まれやすいとの結果
- ヨガ・園芸イベントで、集中度・リラックス度向上や気分向上、ストレス・疲労感軽減を確認

2 オープンイノベーションによる事業・サービスの創出

イベント事例： 産学連携「ワークプレイス活用研究」

日本大学経済学部および大阪公立大学経済学部と連携し、「NAKANIWAのコンセプトに沿った有効活用策及びオフィス価値の向上」をテーマとした研究を実施しました。学生たちから提案された新しい施設活用方法や交流促進の仕組みは、今後のオフィス機能開発などに活用していきます。

研究発表会の様子

ワークショップ事例： 「MOKUワークショップ～平塚木材を虎ノ門でつかう～」

「虎ノ門でできる自社保有林利活用」をテーマに、社員を対象としたワークショップを実施しました。第1回では木材活用の可能性を探るアイデア出しを行い、第2回ではそのアイデアをもとに、虎ノ門での活用を想定したファニチャーや展示ブースを制作しました。
また、木材の特性や活用の意義への理解を深めるため、専門家を招いた座談会も実施。参加社員が自然と共存しながら都市生活に潤いをもたらす木材活用のあり方を自ら考え形にする機会を創出するとともに、社有林資源の新たな利活用に向けた知見の蓄積につなげています。

ワークショップの様子